

令和2年度第1回 函館市東部地域まちづくり懇談会 会議録

開催日時	令和2年9月30日 水曜日 15時00分～15時44分		
開催場所	函館市恵山コミュニティセンター 集会室		
内 容	1 開会 2 懇談会設置の経過と要項の説明 3 座長挨拶 4 出席者紹介 5 テーマの選定について 6 その他 7 閉会		
出席者	別紙「出席者一覧」のとおり（出席18名，欠席2名）		
報道関係	北海道新聞社，函館新聞社 （受付順）		
事務局 出席者 職氏名	戸井支所地域振興課長 井上 徹也 戸井支所産業建設課長 小園 敏弘 恵山支所地域振興課長 桐澤 武磨 恵山支所産業建設課長 小林 竜司 （懇談会オブザーバー） 楯法華支所地域振興課長 京野 尚 楯法華支所産業建設課長 大安 淳一 南茅部支所地域振興課長 村田 剛 南茅部支所産業建設課長 西村 雅人 企画部計画推進室計画調整課長 高橋 紀子 （懇談会オブザーバー）	恵山支所地域振興課主査 奥野 秀光 恵山支所産業建設課主査 松本 光隆 恵山支所地域振興課主任主事 坪 直也 恵山支所地域振興課主任主事 平 浩之 （計13名）	
1 開 会（15時00分）			
桐澤課長	定刻となりましたので，ただいまより令和2年度第1回東部地域まちづくり懇談会を始めさせていただきます。 本日はお忙しい中，御出席をいただきありがとうございます。 私は，この懇談会の事務局を務めます函館市恵山支所地域振興課長の桐澤と申します。よろしく願いたします。		
2 懇談会設置の経過と要項の説明			
桐澤課長	まず始めに，私の方から懇談会の設置に至る経過について簡単に御説明させていただきます。平成16年の合併以降，各支所管内で開催されていきました地域審議会が昨年度をもって終了いたしました。地域審議会につきましては，市町村の合併の特例に関する法律に基づき，期間を定めて設置されておりましたが，それに代わる地域の皆様の御意見などを伺う場として，4つの地域に共通する課題や地域の振興などについて議論し，地域のまちづくりに繋げることを目的として，この懇談会を設置し開催するものでございます。		
桐澤課長	次に，この懇談会を開催するにあたりまして，市において開催要項を定めさせていただきます。 お手元の資料「東部地域まちづくり懇談会開催要項」を御覧ください。 内容を簡単に御説明させていただきます。 1の目的についてでございますが，先ほど述べさせていただきました，		

桐澤課長	<p>東部地域のまちづくりにつなげることを目的に、共通する課題や地域の振興策について、協議することとしております。</p> <p>2の懇談事項につきましては、東部地域の産業振興や地域福祉の向上にかかる議題や振興策などをテーマとして、その具体的な方策を協議することとしております。</p> <p>3の参集者につきましては、(1)から(4)の各団体から地域ごと各1名の出席をいただき、市からは4名の各支所長が加わる構成としております。</p> <p>4の分科会ですが、この懇談会は懇談事項に関しまして、より具体的で専門的な議論を行うために、必要に応じて実務者や有識者等を参集する分科会を開催できるものとしております。</p> <p>5の懇談会の開催頻度等についてでございますが、年に2回程度とし、分科会は必要に応じて開催することとしております。なお開催期間につきましては、本年度より令和6年度までの概ね5年間といたします。</p> <p>6の開催方法等でございますが、懇談会の開催担当の支所は一年度ごとに持ち回ることとし、座長はその開催担当支所の支所長といたします。また開催場所は原則、東部地域内としております。</p> <p>なお、この懇談会は原則公開としておりますが、座長の判断により、非公開とする場合もございます。</p> <p>最後に、この懇談会は任意の開催となっておりますことから、出席者への報酬や交通費などの支給はしないこととしております。</p> <p>以上、開催要項について御説明させていただきましたが、ここまで本懇談会の設置経過と開催要項について、御質問等はございますでしょうか。</p> <p>（「ありません」の声）</p> <p>よろしいでしょうか。</p>
3 座長挨拶	
桐澤課長	<p>次に、座長の選出についてでございますが、要項の6にありましてとおり、開催担当の支所長としております。今回は恵山支所が事務局を担当させていただいておりますことから、恵山支所長の小笠原が座長を務めさせていただきます。</p> <p>それでは、東部4支所を代表いたしまして、今年度の座長より御挨拶をさせていただきます。</p>
小笠原支所長	<p>皆様方におかれましては、御多忙中にも関わらず、御参集いただきまして、ありがとうございます。本日の座長を務めます、あらためまして、恵山支所の小笠原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>第1回の東部地域まちづくり懇談会の開催にあたりまして、4支所を代表させていただきます、一言、御礼と御挨拶を述べさせていただきます。</p> <p>本日、各地区より出席の皆様方におかれましては、日頃より、地域の活動を始め、産業の発展、福祉や教育、防災などの活動の先陣に立たれまして、東部地域のまちづくりに御尽力賜り、この場をお借りして深く感謝を申し上げる次第でございます。</p> <p>さて、早いもので、旧函館市との市町村合併後、今年で16年目を迎えたところでございます。昨年3月には、地域審議会も終了となりまして、時代</p>

	<p>は令和へと移行したわけですが、この間、地域審議会という場におきまして、地域の皆さまからは様々な御意見や御要望を頂戴してきたところでございます。少子高齢化が急激に加速し、これからの福祉や教育施策が問われるほか、地域の基幹産業である水産業におかれましても、海洋環境の変化に伴いまして、近年資源の減少が顕著に現れてきており、担い手の問題も含め、持続可能な産業としての不安も懸念されております。さらに人口減少が進む中、直面する課題等に関しましても、今後は東部地域が一丸となって、取り組んでいかなければならないものと考えておりますが、今後、東部地域の活性化に向けまして、我々行政といたしましても、様々な機会をとらえながら、地域住民の意見を十分にお聞きし、東部地域の発展、ひいては、本市の発展に結びつけてまいりたいと考えております。最後になりますが、本日の懇談会が実りあるもので、忌憚のない自由闊達な意見交換ができるよう、御期待申し上げ、御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>4 出席者紹介</p>	
<p>桐澤課長</p>	<p>次に、出席者の紹介をさせていただきます。 所属とお名前をお呼びいたしますので、恐れ入りますが、その場で御起立をお願いいたします。</p> <p>最初に戸井支所管内から御紹介させていただきます。 戸井地区町会連合会会長の松田様です。 戸井漁業協同組合専務理事の川原様です。 函館東商工会副会長の松永様です。 函館市第26方面民生児童委員協議会会長の植野様です。</p> <p>次に恵山支所管内を御紹介させていただきます。 恵山地区町会連合会会長の長田様です。 えさん漁業協同組合参事の川口様です。 函館東商工会筆頭理事の横手様ですが、所用のため欠席されております。 函館市第27方面民生児童委員協議会副会長の遠藤様です。</p> <p>次に椴法華支所管内を御紹介させていただきます。 椴法華地区町会連合会会長の川口様です。 えさん漁業協同組合椴法華支所指導係兼販売係の小山内様です。 函館東商工会総代の五ノ井様です。 函館市第28方面民生児童委員協議会委員の中村様です。</p> <p>次に南茅部支所管内を御紹介させていただきます。 南茅部町内会連絡協議会会長の熊谷様です。 南かやべ漁業協同組合専務理事の中村様ですが、所用のため欠席されております。 函館東商工会副会長の佐藤様です。 函館市第29方面民生児童委員協議会会長の佐々木様です。</p> <p>次に、各支所長を紹介させていただきます。 戸井支所長の西川でございます。</p>

	<p>あらためまして、恵山支所長の小笠原でございます。 榎法華支所長の芝井でございます。 南茅部支所長の松浦でございます。</p> <p>ここまでが要項に定めております本懇談会の参集者となっております。 なお、本日は別に、オブザーバーといたしまして、恵山支所産業建設課長の小林および市企画部より、計画推進室計画調整課長の高橋へ出席を求めていますので、御了承願います。</p> <p>それでは、これより懇談会に入らせていただきます。ここからの進行を座長へ移したいと存じます。座長、よろしく願います。</p>
<p>5 テーマの選定について</p>	
<p>小笠原支所長</p>	<p>それではさっそくでございますが、議題に入らせていただきます。 本日の議題は、次第の5「テーマの選定について」でございますが、これに関しましては、これまでの4支所における事前協議の経過と併せまして、座長の私より、提案をさせていただきます。</p> <p>先ほど、事務局より、本懇談会の設置目的について、説明がありましたとおり、東部地域に共通する課題や地域の振興策などについて協議し、まちづくりにつなげていきたいというふうに考えております。</p> <p>当地域が抱える問題は、少子高齢化や人口減少問題、主要産業である水産業における近年の水揚げの減少、教育や福祉の充実など、様々な分野での事項が想定されております。</p> <p>こうした状況の下、最初のテーマを設定するにあたり、4支所といたしましても、将来的に東部地域の振興に寄与するものは何かと、協議を重ねて参りましたが、東部地域が加わりました合併後の函館市において、可能性が感じられる事項として、新たな観光振興に着目したところでございます。</p> <p>旧函館は、これまでも国内有数の観光都市を宣言しまして、内外に発信してきましたが、合併により、新たに加わることとなったこの東部地域の豊富な水産資源、雄大な自然、縄文遺跡群などの歴史や文化といった東部地域の資源を活かしていないのではないかと感じておりました。現在のコロナ禍にありまして、観光産業は停滞しておりますが、近い将来、必ず回復してくるものと思われまます。こうした中、南茅部地域の縄文遺跡群は、早ければ来年にも世界遺産登録が決定されるなど、追い風も吹いている状況でございます。観光振興をテーマとした狙いは、函館～東部地域といった、下海岸周遊観光ルートを創りまして、商品化することにより、皆さんの地域にお金が落ちる仕組みづくりを構築したいという発想からでございます。少し説明が長くなりましたが、最初のテーマに観光振興を提案させていただいた理由は以上のとおりでございます。</p> <p>テーマの説明は以上でございますが、皆様に、ここでテーマの確認についてお諮りしたいと思います。皆様、このテーマの設定について御異議ありませんでしょうか。</p>
<p>榎)川口委員</p>	<p>長いことこの地域に住んでいて、地域をずっと見つめてきましたが、下海岸というイメージが、子どものころからずっとマイナーな雰囲気、嫌だなあと感じが個人的にしていたし、我々の友達も、下海岸の「下」というと嫌</p>

だなぁという感じがしていたんですね。函館は西部地区で「西部」というイメージがわいてくるというか、メジャーな雰囲気になって来ているんですけど、東部地域というより、漁業と、これからの観光とのドッキングというか、コンプレックス解消を図っていくためには、「函館東海岸」という統一名が格好いいんじゃないかと思っておりますが、いかがでしょうか。

小笠原支所長

いま、川口様より御意見を頂戴いたしました。私の今の説明の中で、分かりやすい表現として下海岸という言葉を使用させていただきましたけれども、川口委員がおっしゃるように、確かに「東海岸」であったり、他にももっと、もしかしたらいいネーミングが出てくる可能性もございます。いろいろと協議をしながらPRして、イメージがよいようなネーミングを、これから協議する中で検討していきたいなというふうに考えております。よろしくお願ひします。

他に、御質問や意見等ございませんでしょうか。

(意見等なし)

それでは、ただ今のテーマ、今回は観光の振興ということで、第1回目のテーマとしたいというふうに考えておりますが、これに賛成の方は挙手していただけますでしょうか。よろしくお願ひいたします。

(挙手多数)

ありがとうございます。賛成多数でございます。それではただ今決定いたしましたテーマの観光振興につきまして、恵山支所産業建設課長の小林より、具体の説明をさせていただきたいというふうに思います。

小林課長

恵山支所産業建設課長の小林と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。それでは私の方から、函館市や東部4地域の観光の現状や今後の取組、具体的な検討の内容について、簡単ではございますが、御説明を差し上げたいと思います。

本日お配りしております「函館市東部4地域の観光振興について」という資料がございます。こちらの方を御覧いただきたいと思います。それでは資料に沿った形で簡単に御説明をさせていただきたいと思います。

まず始めに、函館市の観光の現況についてということでございます。本市では平成28年度以降、観光入込客数は500万人を超えております。令和元年度では約536万9千人という人数が入込しているということになります。また、訪日外国人宿泊数、いわゆるインバウンドということでございますけれども、こちらでも約46万9千人というかたちで入国が確認されております。この間、胆振東部地震によるブラックアウト等がありましたけれども、概ね好調を維持しているというような状況でございました。しかしですね、世界的な流行を見せております新型コロナウイルスの影響によりまして、本市においても1月下旬以降、宿泊予約のキャンセルが出始めまして、2月28日には北海道の緊急事態宣言、さらに全国に宣言が発表されました4月16日以降は、本市についても入込数が激減しております。宿泊業をはじめ、観光分野全般に大

きな影響を及ぼしているというような状況となっております。

続きまして、東部4地域の現況ということです。東部4地域においては、これまで各地域それぞれです、イベントの実施や観光資源の発掘を行いながら、観光のPRを行ってきていたところでございます。特に本年においては本市の2遺跡が関連資産として構成されております「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産登録に向けてユネスコの方へ推薦されることとなっております。このおかげをもちまして、当地域への注目もいま高まっているというふうなところがございます。ただ、急激に進行しております人口減少ですとか、高齢化などによる地域の担い手の不足によりまして、集客性の高いイベントの廃止や縮小、それに伴い地域の賑わいや活力が低下しているほか、各地域の観光資源を繋げ誘客を図るなど、連携した形での取り組みが弱い状況というふうになっているところがございます。

続いて、今後の東部4地域の観光振興に向けた取り組みについてということでございますが、このようにですね、従前の地域審議会に代わり、東部地域まちづくり懇談会が発足したという事でございますので、これまで各地域で行っていたものの、連携した取り組みに課題があった観光振興、こちらをテーマとして取り上げて、東部地域として誘客を図り、まちの活性化に向けた取り組みについて協議を行いたいというふうに考えております。なおですね、4地域内の既存の観光資源の検証を始めて、新たな角度からのさらなる観光資源の掘り起こし、それぞれの観光資源を繋げる観光ルートの検討、その後のPRなど、具体的な検討となることから、分科会を設置しまして、その中で学識経験者や観光事業者等の知見等も活用しながら協議を進めていきたいというふうに考えております。

なお、新型コロナウイルス感染症への対応についてということでございます。5月の末にですね、北海道を含めた緊急事態宣言が解除されております。6月19日には、都道府県をまたぐ移動の自粛が解除されるなど、苦しい状況でありました観光事業が再開に向けて動き出していると。また7月には国や道の観光キャンペーンが開始されております。今後観光需要については緩やかに回復していくことが予想されておりますが、道央圏ではいまだにクラスターの発生が続いておりまして、今後の収束状況を見通すことはまだ難しい状況というふうになっております。このようなことからですね、まずはプロモーションなどの活動については、道南地域から始め、次に道内、そして青森県などの北東北などの順で、身近なところから徐々に広げていくというふうなイメージで新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら観光需要を掘り起こしていくことを基本として検討を進めて参りたいと考えております。

次の資料でございます。こちらの方に、東部4地域の観光振興の具体的な検討内容についてということで、概略と検討例を記載しております。それぞれの地域、戸井、恵山、椴法華、南茅部、またそれぞれに関連する団体や周辺地域というふうな形で記載しております。上段には観光資源ということで、おおまかなものを記載しております。さらに、下の方にはイベントということで、現状で行っているようなイベントを記載しております。

その中で、例えばなんですけれども、青の線でそれぞれの観光資源を繋いで、日帰りルートとするというふうな検討ですとか、赤の線で繋いでいるものについては、連泊ルートあるいは宿泊ルートとしてプロモーションを図っていくという形のことを考えたいなというふうに思っております。

表の下の丸印2つ目ですが、具体的な検討事案としてということですのでいくつか表記させていただいております。まずは新たな観光資源の掘り起こし、これはモノだけでなくコト、いわゆる出来るコトですね、体験型というようなことも含めて掘り起こしたいと。あとは地域内の観光資源を4支所間で共有するためのツールづくりということで、それぞれ、今まで観光のPRを数多くやってきましたが、お互いにどこまでどういうことをやっているか、なかなか知り得る機会がなかったので、それを知っていこうということです。先ほども申し上げましたが、地域内・4支所間での観光資源やイベントを繋ぎ、日帰りや宿泊、連泊などの観光ルートづくりについて。続いては、検討したルートのプロモーション資料の作成および観光事業者等への効果的なアプローチの検討ということでございます。これはやはり、映像を見てもらうのですとか、そういうことで効果的なアプローチができないかというようなことも検討していきたいというふうに思います。

続いて観光ルート拡大の検討案としては、例えば、恵山登山から水無海浜温泉など、自家用車だといけない場所に移動手段の確保を行うなど、それぞれの地域の実情に応じた内容についても検討をしていきたいなと思っております。

次に、東部4地域観光振興検討分科会のメンバーということで、案でございますけれども、付けております。学識経験者をはじめ、旅行事業者、商工会の方、コンベンション協会、あとは観光部や各支所の産業建設課長、その他のみなさんということで、その事案事案で、案件ごとに必要とされる参加者を募って検討していきたいなというふうに思っております。以上でございます。

小笠原支所長

ただ今、事務局の方から、今回のテーマであります観光振興についての説明がございました。御説明に対しまして、御質問や意見などございますでしょうか。

恵)長田委員

お尋ねしますが、このコロナの問題があるときにですね、観光振興を進めていいのか悪いのかということも考えておるわけでございます、進めるならばですね、恵山の登山、春からですね、青年が遭難したり、またGLAYがステージを作って動画を撮ってからですね、恵山の山に登れますかとか、登山できますかとか、そういう話は聞いたけれども、観光振興をやるんだったら、相当な課題があるのかなと、恵山登山道も椴法華のですね、恵風の観光とかいろいろ私は課題があると思うんですけども、果たしてこのコロナの騒ぎでですね、私はやっぱり、大々的なPR、ポスターとかですね、そういう大々的なPRはコロナが收拾つかなかったらできないだろうかと、痛しかゆしだなと考えております。なお先ほど話が出ましたけれども、我々漁業はですね、本当に深刻な問題でございます、いろんな魚種についても、過去10年前から見れば3分の1にも低迷している。そういうふうな問題もありますので、なかなか地域の懇談会もこういうふうにしたらいんだらうと、そういう課題はですね、本当によく考えなかったら、難しい問題だなというふうにも考えております。私は1番やっぱり、コロナでもなければ大々的なPRが1番効果のある、そういうふうにも考えておりますけれども、いずれにしても、地域のまちづくりの懇談会ですので、先ほどから出てますけれども、持ち回りでやってですね、座長がこのような懇談会の開催を決めて

各委員さんに案内するという事ですけども、私は漁師をやっていますが、1年の何月頃に1度開くとか2度開くとか、日までなくていいから月を設定してもらいたいなとそういうふうにも考えます。以上です。

小笠原支所長

いま長田委員の方から開催時期に関わっての御意見等がございました。昨年度末まで、各地域では地域審議会という法定協議会をおこなってきましたけれども、それがなくなりまして、どういうふうに地域の意見を伝えていくんだということですね、このまちづくり懇談会ということをして4支所において提案させてもらった訳でございます。そうしていく中で、コロナが、あっという間に今年の冬からですね、世界中を渦に巻いて、当初はこのまちづくり懇談会も春にまず最初の懇談をさせてもらいたいなと思っていたところなんですが、いろいろコロナの影響を受けながら、この時期が1回目の開催になったというのが今回の事情でございます。先ほど要項上で概ね年2回というふうなことで、春とその年の年度末だとか、できれば、本当であれば分科会においていろんな具体策をですね、練り上げていって、親会議である懇談会の方にお諮りするという形をとりたいなというふうに思っておりますが、場合によっては、市の予算が必要だとか、そういう部分も出てくる可能性もあります。ですから、2回というのは原則ではありますけれども、その中間の秋くらいにもう一度必要に応じて開催することも考えられます。来年はこのコロナの状況がどのようになっているか予想はつきませんが、概ね2回と決めておきながらも、必要であれば3回、そしてその間にいろいろ分科会で議論を挟み込んでですね、具体の施策を皆さんに都度都度、お諮りしていければなというふうに考えておりますので、御理解をお願いいたします。よろしいでしょうか。

ほかに御質問等ございませんでしょうか。

楫)川口委員

全国各地の有名な観光地を見ていると、やはり歴史なんですね。歴史のすごさというか、歴史の内容がずうっと続いて、それを観光客が感じ取って、知的な感動を得るとというのが観光の目的だと思うんですね。昔はサイトシーイングで、観光っていうのはただ景色を見て美味しいものを食べるって状況から、やっぱりこれから不安な時代になってきます。時代が大きく変わろうという流れになっているんで、人間としてどう生きるべきかとかそういうものを感じ取らせるような、ちょっと極端に言えば哲学的な感動というか、そういうものを得られるような地域づくりをしていかなければ、ただの古いだけの物であれば、1回来たら来ないということになると思うんですね。それで温故知新という言葉はありますけれども、それをどうこれからのまちづくりに活かしていくかということなんですね。それで1つ提案なんですけれども、次の会議までにですね、もうちょっと絞るために、各地域の町史がありますよね、あの中から、箇条書きに抽出して来れば、その地域の特徴、どういう形でどういう地域になってきたかってのがはっきりわかるんです。それをテーマに話し合えば、おのずとここの4町村の観光のメインというか、筋道ができるような気がするんですね。一番古いのは縄文ですよ。今世界遺産にならんとしているんですけども、実際には住民の縄文に対する知名度というか、ちょっと少ないような感じがします。それが世界遺産になるってことは、非常にさみしいなという感じがしますよね。縄文は自然との共生、

小笠原支所長	<p>それから持続可能な社会をつくるということの今日的なテーマが感じられるテーマだと思うんですね。それを繋げていくためにこれから平和だとかそういうものも入れながらテーマを作っていくということにしていかなければならないと思うんですね。だからどう縄文と繋がってくるかという歴史的な背景をきちんと並べ立ててそれを繋げていけばよそにない特徴のある地域づくりになると思いますので、ぜひ各町村の歴史の中から抽出してこれが特徴あるなというところを出してもらってそれから検討した方がいいんじゃないかなと思います。</p> <p>いま川口様からいただいた意見もですね、今後の分科会等の中でいろいろと議論させてもらいながら、それぞれの地域の魅力というのももちろんありますし、歴史も当然ありますし、今後それぞれの地域の魅力をブラッシュアップしていきながらですね、何と何をどういうふうに組み合わせでどういうストーリー性を持ってこちらの「東海岸」の方に人を流れさせるかというのをですね、議論を深めて参りたいなというふうに考えております。ありがとうございます。</p> <p>他に御意見ございませんでしょうか。</p> <p>(意見等なし)</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>では私の方から、本日、観光振興という事で、テーマを皆さんに承認いただきました。要項上において本懇談会は概ね5年ということで定めさせていただいております。今回の最初のテーマは観光振興という事で、この東の地域に人を呼び込むというふうにさせていただきましたが、やはり今川口さんからも意見があったように、なかなかそれを1つの物に作り上げるというものに関しては時間が要するようなこともございます。ですからこの5年間でまずは観光振興で行きますけれども、その他にまた新たな共通するような問題等々審議していければなというふうに考えておりますので、1年に1つのテーマということでなくてですね、ものによっては複数年かかるもの、複数年掛けながら、また新たなテーマによっては、並行して議論していくもの、というようなこともありうるのかなというふうに思っておりますので、それはみなさんに御了承願えればというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
6 その他	
小笠原支所長	<p>それでは、議題になっておりました本日のテーマに関しましては、これで終わらせていただきます。次に次第でその他として御質問御意見などございますでしょうか。せっかくですので、テーマの設定に関しましてはみなさまから御意見をいただきましたが、せっかくの場所ですので、何か御意見等ございましたら遠慮なく、忌憚のない意見をいただければと思います。事務局の方は特にありませんか。</p>
事務局	ありません。
小笠原支所長	それでは今日出席のみなさんの方から何か、観光以外のことでも何でもよ

<p>楳)川口委員</p>	<p>ろしいですので、意見等ございましたら。</p> <p>いっぱい話したいことはあるんですが、この間イコモスが来て状況、ちょっとその辺のこれからの流れを聞きたいと思うんですけども、いかがでしょうか。</p>
<p>松浦支所長</p>	<p>南茅部支所の松浦です。いま川口委員からイコモスの件ということで、イコモスの現地調査が報道等にもあったとおりに終了いたしました。いまそれを受けて実際に現地を見た中で確認したこと、またおそらく課題等ですね、そういうのを整理していきながらということで、このまま順調に行けば来年の夏ごろまでには正式決定をというふうな流れでございます。実際南茅部地域もですね、日々、私どもの支所から見えるんですけども、小中学生とか、修学旅行とか、見学会とかということで、大型バスが相当入って来てますね。そういう部分では先ほど長田委員もおっしゃっていた、恵山の活火山の観光振興だとか、そういうルートの可能性というのは極めて有望なひとつになるのかなと。いまはコロナで大々的にそれをPRはできませんけれども、逆に十分にその観光施策を練れる期間だと思えばですね、これからみなさまがたいろいろな議論をして、しっかりとした形のものにして提案していければ可能性は大きいのかなと。イコモスとは多少離れましたけれども、現地調査を終えて、いま順次進んで、来年の登録に向けて進んでいるという状況でございます。以上です。</p>
<p>楳)川口委員</p>	<p>いま支所長がおっしゃいましたけれども、だいたい振興させなきゃならない、繋がっていかなければならない大きな要素というのはみんな心得てると思うんですね。それで我々が見ている、30年、40年、意外と地域が動かなかった。だから、これを機会にですね、5年の中で完結するようにスピード感を持ってやってほしいと。菅内閣のようにお願いいたします。</p>
<p>小笠原支所長</p>	<p>他に御意見等ございませんでしょうか。</p> <p>(意見等なし)</p> <p>はい、ないようでございます。それでは、本日予定しておりました議題はすべて終了となりました。みなさま、御多忙のところ長時間お付き合いいただきありがとうございます。次回の開催予定でございますが、分科会での議論を踏まえまして、来年の2月か3月にもう一度開催できればというふうに考えております。その際はまたお声をかけさせていただきたいというふうに思います。よろしくお願いいたします。それでは、事務局に返します。</p>
<p>桐澤課長</p>	<p>それでは、これもちまして令和2年度第1回東部地域まちづくり懇談会を終了いたします。ありがとうございました。</p>
<p>7 閉 会 (15時44分)</p>	